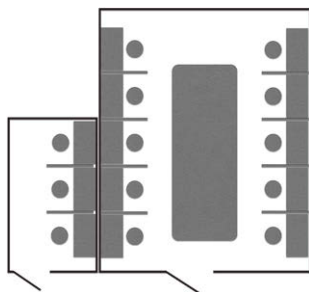


【第9回】 藤田医科大学

花岡良太，外山 宏 藤田医科大学医学部 放射線医学教室



CT読影室全景



CT読影室

DATA

場所：低侵襲画像診断・治療センター

1階(RIフロア)，2階(MRIフロア)，4階(CTフロア)

読影スタッフ：21人(うち診断専門医14人)

読影端末：1階4台，2階4台，4階18台

PACS/レポートシステム：キャノンメディカルシステム社製

電子カルテシステム：IBM社製

これが自慢!

私たちの病院には低侵襲画像診断・治療センターという1棟すべて放射線施設があり，それぞれのフロアごとに各モダリティが配置されている。1階のRIフロア，2階のMRIフロア，4階のCTフロアにはそれぞれ読影端末があり，基本的には自分の担当する検査のフロアで指示出しや注射などの業務を行いながら読影を行っている。

各フロアで読影室の大きさや読影端末の数は異なるが，CTフロアの読影室が一番大きく，読影端末の数も10台と一番多いため，若手のたまり場となっている。読影室の席は固定制ではないが，各自使用する端末は大体決まっており，キーボードやマウス，椅子などをカスタマイズしている。

読影室の配置は壁側に読影端末を設置して，センターに大きなテーブルを設置している。センターのテーブルには，プリンターや電話，文房具などの事務用品や学会土産のお菓子などが並んでいる。また，読影室内にはウォーターサーバーが設置されており，いつでもおいしい水が飲むことができる。大きな読影室の奥に隠し部屋のような小さな読影室が存在し，こちらには読影端末が3台設置されている。



こだわりのキーボードとマウス



隠し部屋読影室



こだわりのコーヒー

読影レポート作成

大量に発生する読影レポートを効率的に作成するために、半分以上のスタッフがAmiVoiceを使用している。AmiVoiceを使用しない者は、REALFORCEのキーボードを使用したり、ページングのしやすいマウスを使用するなど、各自の読影スタイルに合わせた工夫をしている。

coffee break

それは2018年4月、とある1人の放射線科医が入局してからコーヒーブームが始まった。金杵と円錐ペーパーフィルターを使用する松屋式ドリップや、パウダーコントロールストッカーを使用するマイルドドリップ、フレンチプレスなど、コーヒー豆のポテンシャルを最大限に引き出すドリップ方法を日々探求している。午後の読影は眠気との戦いでもあるが、そんなときはコーヒーのカフェイン効果でスッキリ。また、余裕がある朝はBALMUDAのトースターで焼いた美味しい食パンと淹れたてのコーヒーで、名古屋名物のモーニング気分を味わいながら症例検討を行うこともある。



あなたの読影室、紹介してみませんか？

各施設において、読影環境を整えるためにさまざまな工夫がなされていることと思います。「配置」「空間」「照明」など、皆さまのこだわりをぜひご紹介ください！ご応募については下記までお問い合わせください。

clinimage@medicalview.co.jp

※掲載の可否につきましては、編集部にて判断させていただきます。あらかじめご了承ください。